



やすらぎ加賀通信

ブログ更新中 見てね!

第108号 2016/3/18

今年はオリンピックイヤーですね。また、高校生も選挙に参加する機会が予定されており、節目の一年になりそうです。

近年は、寒暖の変化が激しく異常気象という言葉が当たり前(?)のようになってきましたが、東北大震災からの地殻変動も影響しているのでしょうか。太平洋プレート上にある唯一の国土、南鳥島ではどうなのでしょう。とはいえそろそろ日本列島に春が来て、また敷島の桜を見ることができます。通室生にとって、自信を持って一步を踏み出せる年になってくれればと願っております。

	来室相談	訪問相談	電話相談	合計	通室生徒
2月	2	10	9	21	3
3月	4	5	4	13	3

※春休み 3/25(金)~4/7(木)

ただし通室生のみです。 **相談はOKです。**

3月は3月16日現在データです。

来年度4月最初の土田カウンセラー来室相談日は4月22日(金) 9:30~11:30です。

副室長 ごあいさつ

風、雨、雪。気候の変化に翻弄され、あっという間に平成27年度も終わりに近づいています。今年度も関係機関のご支援を得て、事例研究会や加賀フレンドシップ事業などに取り組んできました。

事例研究会において、生徒の抱える問題の難しさを再認識しました。また、参加していただいた方々からたくさんの貴重なご意見をいただきました。このご意見を活かして少しでも生徒がプラスの方向に進めるようにと願っています。

昔を振り返ると、問題をかかえる生徒に対して誰にも頼らず自分一人で対応していたことを思い出します。一人の力には限りがあります。多くの方に本教室の事業に参加していただき、悩める生徒が少しでも減って欲しいと思います。

ご支援いただいた皆様に、心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

【石川県立加賀聖城高等学校教頭 地野 信介】

アッキー の つぶやき

レジリエンス(困難から回復する力・元に戻る力)を模索して、早一年が経ちました。個人差があるレジリエンス。レジリエンスを育てるポイントは、日々の「出来たこと」に子供自身が気づくこと、そして、辛い時に自分を助けてくれる人や物、場所を子供自身が意識することです。そうすることで、時間がかかっても子供たちは、ある日ふと、何かのきっかけで困難から自ら回復していくのです。そんな子供たちに寄り添いながら、自分への肯定感を育てるように関わって行きたい、と願いながらの私の1年でもあったように思います。今年度も出会った人たちに感謝です。

【やすらぎ加賀教室スーパーバイザー 土田晶子】



「一粒の麦もし地に落ちて死なずば、ただ一つにてあらん、死なば多くの実を結ぶべし」皆さんご存じのフレーズですね。やすらぎ加賀教室のプランターでも多くの花や野菜が種を残してくれました。春になると、また新しい芽吹きが感じられます。楽しみです。

さて、かつて通室生であったAさんやBさんが、目出度く高校を卒業されたとの便りが届きました。CさんやDさんもそれぞれお仕事について働いているとのこと。

社会の風は時として厳しいものもありますが、顔を上げて歩いて行くことを信じております。

3月に入ると太陽が明るく陽射しが長くなりますね。そんな折、Aさんがお父さんと一緒に卒業報告に訪れてくれました。ちょっとインタビューをしてみました。

卒業の感想→ 追試がありギリギリ、もう一年かかるかと思った。
数学が難しかった。

将来の夢は→ 専門学校に進学、絵を描く仕事に就きたい。

通室思い出→ とにかく眠たかったが、金八君（金魚）が可愛かったし、野菜作り等をして楽しい時間を過ごすことができた。ミサンガの作り方はずっと覚えている。



【2年目のデンドロ】

みんなマイペースでね！

学校が子ども達の良いところを伸ばしてくれる所であるよう願っております。

【来シーズン用種】



加賀フレンドシップ振り

【フレンドシップ学生の感想集約】

とても貴重な体験でした。高校生に対する適切な指導法、接し方など多くのことを学ばせて頂きました。子どもたち、職員の方々、本当にありがとうございました。今後この経験を生かして頑張っていきます。

【先輩学生の就業現場での奮闘事例】 Y小学校教諭よりアドバイス

一昨年度、昨年度と学生ボランティア活動に参加させていただきました。そんな私は今年度から教員生活を送っています。新任教員としての毎日は苦勞の連続ですが、日々子どもたちと接する中で、ボランティアでの経験が生きていることを実感しています。素直でかわいらしい子どもたちの可能性を存分に引き出してあげられる教員を目指して今後もがんばります！